

2025年（令和七年）

11月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ10階
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

■ 概況

当週（11月6日～12日）の国際石油市場は、需給緩和懸念が高まる中、対口経済制裁の一環で、ルークオイルが、イラク油田の出荷の不可抗力条項を宣言、米国の政府封鎖の解除見通しなど、堅調要因もあったが、緩和見通しが優勢で、やや軟化した。

NYのWTI原油先物市場は、11月6日に小幅続落の59.43ドルで始まり、7日からは反発、3営業日続伸で、11日は61.04ドルまで上昇したが、12日には4営業日ぶり反落の58.49ドルと、節目の60ドルを割る水準で終わった。

また、中東産バイ原油/東京市場（11月渡し）も、前週（10月30日～11月5日）は65.70～66.30ドルの範囲で推移したが、当週は、11月6日65.20ドル、7日65.00ドル、10日65.40ドル11日65.00ドル、12日65.70ドルだった。

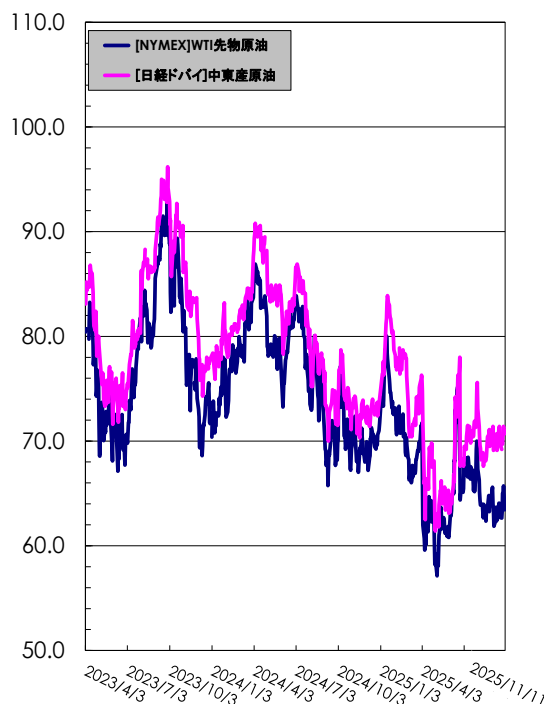
対ドル為替レート（TTM）は、前週（10月30日～11月5日）152.80～154.38円の範囲で推移したが、当週は、11月6日154.04円、7日153.24円、10日153.93ドル、11日154.36円、12日154.28円だった。

財務省が11月11日に発表した貿易統計（速報・旬間）によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は69,650円/KLで前旬比733円/KL高、ドル建てでは74.39ドル/Bで前旬比0.37ドル/B高、為替レートは1ドル/148.88円。

そのような中で、11月10日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.1円安、軽油も同0.1円安高、灯油は同1円安（18リットルベース）だった。ガソリンの全国平均価格は173.5円だった。11月13日～19日の燃料油補助金の支給額は、「予防的な激変緩和措置」が廃止されているため、引き続き、定額分のみ、ガソリン・軽油は10.0円、灯油・重油の場合は5.0円となった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/2 ~ 11/8	2,714 ▼ -24	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	78.4 ▼ -0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	11/8	10,379 ▼ -354	▼ -
価格	中東産原油(日経ドバイ) (\$/bbl)	11/11	65.40 ▼ -0.50	▼ -7.4
	WTI先物原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/10	60.13 ▼ -0.92	▼ -7.9
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	74.39 ▲ 0.37	▼ -5.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	69,650 ▲ 733	▼ -3,953
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	148.88 ▼ -0.84	▼ -3.03
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/11	154.93 ▲ 0.45	▼ -0.79

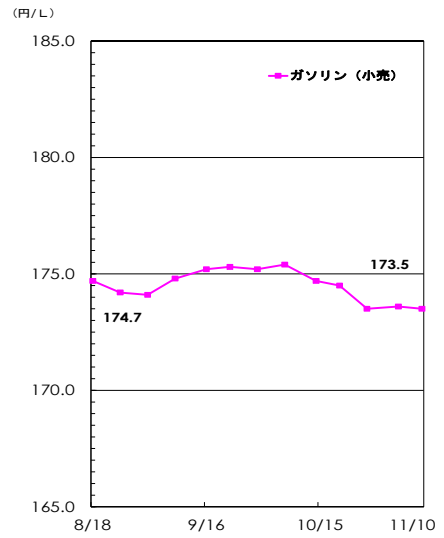
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/8	1,651	▲ 44	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/4 ~ 11/10	78.9	▼ -1.1	▼ -1.1
		(TOCOM/中部)	11/10	75.0	▼ -2.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/10	173.5	▼ -0.1

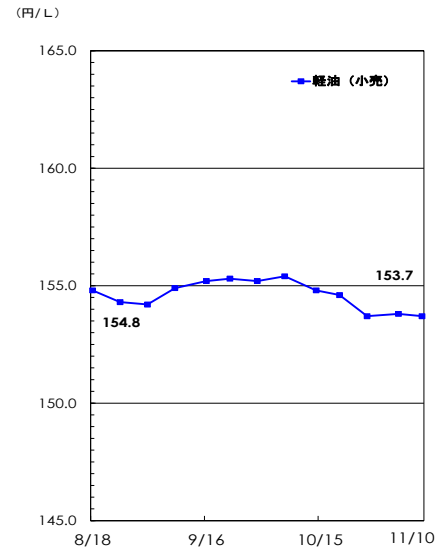
※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

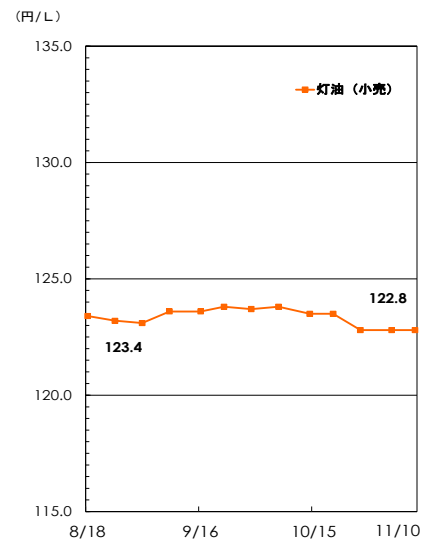
3		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/8	1,478	▲ 29	▲ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/4 ~ 11/10	80.0	▼ -0.9	▼ -2.1
		(TOCOM/中部)	11/10	-	-
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/10	153.7	▼ -0.1

※先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週		前週比	前年比
需給	在庫	11/8	2,665	▲ 61	▼ -
価格	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾) 11/4 ~ 11/10	86.0	▲ 1.5	▲ 6.0
		(TOCOM/中部)	11/10	82.0	➡ 0.0
	小売 [週動向]	(資工庁公表)	11/10	122.8	➡ 0.0



■ 関連情報

1 海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(10月30日～11月5日)のNYMEX・WTI先物市場は、59.60～61.05ドルの範囲で推移した。

当週11月6日は、株式市場の低下に伴う投資意欲の減退、また、経済指標の軟調に伴う米国の景気先行き懸念、さらには、前日発表の米国原油在庫の積み増し報告などを背景に、小幅ながら、続落した。終値は前日比0.17ドル高の59.43ドル。

週末7日は、石油の需給緩和拡大懸念が続くなか、週末のポジション調整・安値拾いの買いが優勢で、4日ぶりに反発した。他方、米国政府の一部閉鎖が続く中、空港業務の一部縮小に伴う航空便の一部縮小でジェット燃料の需要減少も懸念され、上値も抑えられた。12月物終値は、前日比0.32ドル高の59.76ドル。

週明け10日は、9日夜、米国上院は、つなぎ予算の採決に合意、事実上、政府の一部閉鎖は解消されることとなり、米国経済の正常化が図られることとなり、また、先日米国の制裁リストの追加されたロシアのルークオイルは権益を持つ、イラクの油田からの出荷について、不可抗力条項を発動したとの報道があり、緊張も高まり、値上がりした。12月物終値は前週末比0.38ドル高60.13ドル。

11日は、10日、米国のつなぎ予算案は上院で可決され、下院でも可決、大統領も署名の見込みで、政府機関の正常化の期待が高まる中、ルークオイルの不可抗力発動に加え、ブルガリアも同国内のルークオイルの製油所を買収するとの報道で、制裁強化の影響が本格化し始めたとして、3営業日続伸した。インド国内でも、ロシア原油の代替として、サウジ・イラク等への接触も伝えられている。11月物終値は0.91ドル高の61.04ドル。

12日は、OPEC月報で、2026年のOPECプラスの需給均衡を予想(従来は供給不足)、米国エネルギー情報局(EIA)は、非OPECの供給を上方修正、いずれも需給拡大方向の見通しで、需給緩和が意識され、4営業日ぶりに大幅に反落、節目の60ドルを割った。12月物終値は2.55ドル安の58.49ドル。この日発表予定のEIAの石油在庫報告は、一日遅れの13日となった。

2 海外/米国石油市場

米国エネルギー情報局(EIA)の11月13日発表の7日現在の米国在庫週報によれば、原油在庫は前週末比640万バレル増と市場予想(200万バレル増)を大きく上回る積み増しで、ガソリン在庫は90万バレル減と市場予想(200万バレル減)を下回る取り崩しで、米国の石油需給の緩みを意識させた。

EIAによると、11月10日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比3.7セント高の1ガロン3.056ドル(124.9円/ℓ)と2週ぶりの値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比8.4セント高の1ガロン3.837ドル(156.9円/ℓ)と3週連続の値上がり。

ペーカーヒューズ社によると、11月7日時点で米国内の稼働陸上石油掘削装置は、前週比横ばいの414基であった。

3 国内/原油処理量

石連週報によれば、11月02日～11月08日に休止したトッパ能力は41.9万バレル/日で、前週に対して0.0万バレル/日(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は271.4万klと、前週に比べ2.4万kl減少。前年に対しては9.4万klの増加。トッパ稼働率は78.4%と前週に対しては0.7ポイントの減少、前年に対しては2.7ポイントの増加となった。

4 国内/製品在庫量

11月8日時点の在庫は、前週に対してガソリン、灯油、軽油、C重油は積み増し、ジェット、A重油は取り崩しとなった。

ガソリンは165.1万kl、前週差4.4万kl増。前年に対しては8.2万kl少ない。

灯油は266.5万kl、前週差6.1万kl増。前年に対しては8.3万kl少ない。

軽油は147.8万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては1.4万kl多い。

A重油は76.6万kl、前週差2.3万kl減。前年に対しては1.7万kl少ない。

C重油は162.2万kl、前週差4.2万kl増。前年に対しては14.9万kl少ない。

(単位：千KL)

	今週 (11/8)	前週 (11/1)	前週比	
ガソリン	1,651	1,607	▲ 44	(3%)
ジェット燃料	850	879	▼ -29	(-3%)
灯油	2,665	2,604	▲ 61	(2%)
軽油	1,478	1,449	▲ 29	(2%)
A重油	766	789	▼ -23	(-3%)
C重油	1,622	1,581	▲ 41	(3%)
合 計	9,032	8,909	▲ 123	(1.4%)

5 国内/元売会社製品卸価格

11月4日～10日のドル建て中東原油価格は前週比値下がりし、為替レートは円安でわずかに相殺したが、元売会社の卸建値は値下がりしたものと見られる。さらに、暫定税率廃止に向けた補助金の段階的拡充に伴い、11月13日以降、補助金は、定額(揮発油・軽油15円、灯油・重油は5円)となることから、補助金込みの実質卸価格は値下がりとなった模様。

6 国内/製品小売価格

11月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の175.5円、軽油も同0.1円安の153.7円、灯油は18 $\frac{1}{2}$ ベースで同1円安の2,210 $\frac{1}{2}$ 円(1 $\frac{1}{2}$ ベースでは同横ばいの122.8円)。ガソリンは2週ぶりの値下がり、軽油も2週ぶりの値下がり、灯油も2週ぶりの値下がりだった。ガソリンについて、都道府県別には、値上がり17道県、横ばいは5府県、値下がり25都道府県だった。全国最安値は埼玉県の167.4円、その次は愛知県167.6円であった。他方、最高値は鹿児島県の183.9円。最も値上がりしたのは福井県(前週比1.4円高)、最も値下がりしたのは徳島県(同1.1円安)だった。

次回調査時(11/17)のガソリンの小売価格は、値下がり予想される。

(単位：円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/10)	前週 (11/4)	前週比	直近高値	
レギュラー	173.5	173.6	▼ -0.1	2023/9/4 2025/4/14	186.5
灯油	122.8	122.8	→ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	153.7	153.8	▼ -0.1	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.iej.or.jp>) に掲載しています。
次回(2025第33号)の公表は、11/21(金) 14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘッドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

②【原油価格】〈WTI先物原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange:NYMEX)WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場(取引の中心限月)の午後の中値を採用。※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。

為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate:中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。